

東北大学大学院歯学研究科
インターフェイス口腔健康科学
第45回学術フォーラム
Forum for Interface Oral Health Science

PK/PD理論に基いた
抗菌薬の適正使用
—投与方法の変化とTDMについて—

中村 浩規 先生
歯科医療センター薬剤部長

平成21年9月1日 (火) 17:30 (1時間程度)
歯学部A1セミナー室 (基礎棟1階)

講演内容

1. PK/PD理論における抗菌剤について
2. 最近の抗菌剤投与方法の変化
3. 抗MRSA薬の血中濃度モニタリング(TDM)について

従来、抗菌薬は1日量の均等分割投与が一般的でした。しかし、現在、抗菌化学療法では有効性、安全性だけでなく耐性菌対策の観点から薬剤の投与方法が見直されています。その背景となっているのがPK/PD理論です。PK/PD理論のPKとは薬物動態、PDは薬力学を指し、抗菌化学療法では血中濃度とMICを指標として抗菌薬の投与设计に応用されています。

今回のセミナーでは、抗菌薬におけるPK/PD理論を紹介するとともに、この理論に基づいて開発された新規薬剤や用法、用量が改定された既存薬、さらには、抗MRSA薬のTDMについて紹介します。

連絡先: 第45回モデレーター 佐藤しづ子 (内線 8390)